

<p>岐阜県中学校</p> <p>国語教育研究会</p> <p>会報 5</p>	<p>昭和38年7月10日発行</p> <p>もくじ ~~~~~</p> <p>△「やってみなければ わからない。」 という部分…………野田 満</p> <p>△石井先生を 囲んでの研究会 …………本荘中国語部会</p> <p>△随 筆 「幼児熟睡中」 …………後藤一次</p> <p>△会員名簿 △事務局だより</p> <p>△あとがき</p>
--	---

「やってみなければわからない」
という部分

野田 満

最近出た小瀬洋喜氏の歌論集を読む機会があった。その中に、短歌とか俳句というものは、「やってみなければわからない」ところのある部分を持っているということについて、つつこんだ究明がなされていた。

あたりまえのことのようだが、こうあきらかに指摘されてみると、そういう部分がどの分野の中にもひそんでいるにちがいないと思われる、それおそろしい気がする。

「教育」に対してはくろうとでも、教材として出てくる小説・詩・短歌などのどれについても、わたしはしろうとである。

それでいて、ほんとうの国語教育ができるかどうかと不安になる。けれども、文学のすべてのジャンルを専門的にやってみる、創作してみるなどということは、できる話ではない。

そこで少なくとも、純粹な創作の機会を得たいと思い、私はそれを俳句に求めた。短歌に求めた。

両方とも、ほんとうのくろうとにはなれそうもないけれども、やってみる前と後では、教材研究の取り扱いや授業の仕方がかわったと思っっている。

どんな好きでない作品でも、あるいはどんなに主義思想のちがった人の作品でも、くそみそにやっつけてしまうなどということをもうしなくなつたのも、その変化のひとつである。

(小瀬洋喜氏 岐阜薬科大学助教授・歌人)

石井先生を囲んでの研究会

……本荘中学校国語部会……

去る五月十五日、文部省派遣指導員として 石井先生が、岐阜市本荘中学校を訪問されました。その折、国語科指導について、色々ご指導をたまわりました。

当日は第二時間目に大前貴久枝先生の研究授業、引き続き、第三時間目に研究会。お忙しいからだの先生のこととて、十分話し合うことはできませんでしたが、以下は当日の模様の概略であります。

いささかでも、先生方のご参考になればと思い、この会報をかりてご報告いたします。

第一学年二組 国語科学習指導案

指導者 大前 貴久枝

◆ 題材 ふみ切りで

◆ 本題材の指導にあたって

① 本題材は

(一) ふみ切りで

(1) ふみ切りで

(2) 「ふみ切りで」を読んで

○ 話しあいのしかた

(二) 立てふだ

以上の題材が、 \llcorner 進んで話し合いに \llcorner という單元のもとに取り入れられている。單元名の指すごとく、聞くこと、話

すことの学習に重点がおかれ、発言と話しあいに慣れさせ、さらに人の話しを確実に聞き取り的確に応答のできるようにすることをねらいとしている。取り扱いにおいても (1)と(2)は切りはなさないで、関連させて取り扱うよう 指導書では指示している。

② 話しあいができるようにするといっても、ただ気のついたことを話せ、気楽に話せと行ってみたところで、話しあいが活発になるわけのものでもなく、高まり、深まるわけのものでもない。要は、どう指導することによって育てるか、問題はそのへんにあるように思われる。

わたしはまず、話せる前提として読みをとりあげたい。文章をすなおに読めば、そこから感想もわいてくるだろう。文章をたんねんに読めばそこから問題も生まれよう。読みが進むにしたがつて、ものの見方や考え方も進んでくるだろう。そうしたものを持った時、彼らは、話さないではいられなくなるだろう。

③ 話せないということは、何ものをもっていない時に多い。
(2) 「ふみ切りで」を読んで、を切りはなして学習計画をたてた。それは、一次読みの時、ここにあげられたような問題に子どもたちは、ふれてくると予想されたし、わたしのねらうものが、話しあいのしかた、そのものではないところからこれを切りはなして、後に話しあいのしかたとして別に扱ったほうが良いと考えたからである。その時自分たちの話しあいの実際と比較検討する心組みである。今一つは、ここにある話しあいが、文章の中の一つ一つのことごと、それほど深いつながりをもたない提示のしかたであることによる。

④ 子どもとわたし
この四月、各小学校の十六のそれぞれの教室から集ってきた

子どもたち　そこで彼らは、どのような国語学習をしてきたのか、今のわたしは、それをまだようにぎらないでいる。ひとりひとりの子どもを育てるには、ひとりひとりの子どもの実態を知らねばならないという　わたしの持論は、腰をおちつけて、彼らの実態調査からはじめねばならなかったのに、一学級の子どもたちと、毎日毎時間共にくらせる小学校と異り、六学級を転々と移動する現状では、実態をみつめるとまもないままに、授業にとびこまねばならなかった。

この学級の子どもたちと接して授業を行ったのは、きょう（五月十一日）で、正味十三時間　当日は　十五時間目にあたる予定である。

名前は一応、名簿をみて四月のはじめに　どの学級も暗誦しておいたのに、知らぬまに、あちこちの学級の子どもの名前が　こんがらかって、名前と顔が一致するのは一年一組だけで、この組は、1—5　といったところ。

◇　予想される子どものごき
今まで小学校で学習してきた文章にみられない、聞きなれない語句にとまどうだろう。

抵抗あると思われる語句

戦後のこんらん。　尾をひいている。　ぬりこめられて。　あくまで　というの。　善行。　顕彰。　おそらく。　あわせ。　郊外電車。　とどろかせながら。　疾走。　悲鳴。　すくんだ。　とっさ。　硬直。　あげきつたスピードのまま。　ばく進。　おびえる。　みつめているばかり。　かいくぐって突進。　力があまって。　けたたましい。　血まみれ。　しゅんかん。　息がつまった。　とっさに判断。　度を失って。　ぼうぜん。　自失。　はかることができないほど。　上申。

風のたより。

- ・調べさせる（辞書の利用）
- ・類語による理解
- ・文脈にそって考えさせる
- ・用例による理解

○ 理解しがたいことがら

近ごろの社会は……………

・子どもたちは、字句的に現在の社会とか、今の社会と簡単にカタづけようとする。（文脈にそって、文章全体を通して　いつかをはつきりつかませる。）

戦後のこんらん　については、（解説の必要があるう）あわせの終りで……………

（解説の必要も。）

○ 子どもの人間批判……………結果論におち入るのではないか？

母親は愛情がない
番人は無責任
というように

・文章にそくして、その時、その場に立たされた時の人間の気もちを考えるように、経験と結びつけることも必要か。

・また、作者の意図する　だが、わたしは、あくまで人の心の……………背景になるものである　人間の弱さに気づかせることも読解の過程で　できないだろうか。

○ 作者の意図するものを、教訓的に受けとる者がありはしないか
例えば

・幸雄さんのように、義務でなくても、人を助けなければいけない。
・幸雄さんのように、きびんに行動しなければいけない。

・幸雄さんのように 美しい心の持ち主にならなければいけない、というように、
 (叙述を検討する段階 形象を検討する段階で考えさせていきたい)

◇ 目 標

- (1) 文章を叙述にそくして 読むことができるようにする。
- (2) 文章に密着した感想がもてるようにする。

◇ 指導計画

- (1) 通し読み (読みの速度測定) 感想発表 (読み取りの傾向を知る) ①
- (2) 意図をつかむ〔主題〕 (各自の形象把握のくいちがいを見る) ①
 - 四つ切り半紙に簡単にかく、発表、話しあい
- (3) 形象追求、読解検討 ②
 - 形象を追って、具体的にどのように書かれているか
 - 段落話題 叙述検討 (語句のもつ意味、語感等を掴む)
- (4) 意図確認 形象検討 ①
 - 問題意識展開
 - 問題意識処理 (物の見方、考え方を深める)
- (5) まとめ ①
 - 感想をかく (最初の自己の感想より発展)
 - 朗読 (表現に注意して味わって)

◇ 本時のねらい

◇

具体的描写場面、幸雄さんへの感銘感が、どのように書かれているか、叙述にそつて読みとる。(指導、感銘感の抽象表現と、描写の具体的表現を結びつける読み)

学習過程

- (1) 太字の学習のねらいをたしかにする
 - (2) 描写場面のトピック抽出
 - (3) トピックを骨にして、その場の情景を読み取る
 - (4) 電車、女の子、母親、番人、少年
 - (5) 作者の気もちを、叙述にそくしてたしかめていく
- 板書 (予定) 後記
- まとめ

◇

ご指導いただきたい問題

- (1) 中学校の文学教材の読解スキルには、どんなものがあるか
- (2) それは、どのように指導したらよいか。
- (3) 文学教材の板書(特に主題をつかませる時)は、どのようなしたらよいか。

◇

本教材 取り扱い中に見られた子どもの実態

○ 第一時 読みの速さ (通し読み)	3分以内	二〇名
	4分	一五名
	5分	一三名
	6分	三名
	6分以上	一名

○ 第一次感想の発表できた者

男子	1	3	女子	1	1
	2	4		2	8
					計二四名

○ 作者の一番いいたいこと（子どものメモより）

	男子	女子	計
(1) あくまで、人の心の美しさを信じた	8名	11名	19名
(2) 幸雄さんの偉い人だということを知ってほしい	2	7	9
・ 幸雄さんの善行をみんなにわかしてもらいたい。	4	1	5
・ 幸雄さんの勇気をいいたかった	1	0	1
・ 女の子を助けたこと	4	1	5
・ やさしい人だ	1	1	2
(3) すぐ判断して、きびんな人になってほしい	1	1	2
・ 人の子でも、あぶない時は進んで助ける必要がある	0	1	1
・ 正しいことは進んでやることが大切	2	0	2
(4) 出てくる人物の態度をいいなかった	2	0	2
・ おかあさんの態度がわるいこと	1	0	1
(5) この行ないを知っている人はあるまい	0	1	1
(6) 人の心の美しさまで、そのかげにぬりこめられてしまっている	0	1	1
・ 兵庫県武*郡西灘村といったところ	0	1	1

（注 *は文字欠落。「武庫郡」と思われる。）

◇ 板書事項 予定

スピードを出すあたり

しゃだん機の前

けいてきをとどろかせながら疾走

小きざみに車体を左右

五つばかりの女の子

あつ

口から悲鳴

足がすくんだのか

硬直したように

あげきつたスピードのままばく進

おびえたまま レールの間に突っ立って

母親の方をじっと

かいくぐって突進

だきあげた すべった しりもち

けたたましいけいてき

急ブレーキ

ころぶようにしてレールの外へ

息がつまった

あのような時に

とつさに判断して きびんに行動

ふつうの人

命をかけてのこと

授業を了えて

大前 貴久枝

◇ 学年が進むにつれて発言が少なくなる。

わたしは、中学の教育から十三年も離れていた。併し、小学校の実習を了えて中学校の実習に入った教生が、

「中学の子どもは、少しもしゃべってくれない。」

と、よく伝えにきたので、そのことをわたしなりに、問題は教師の扱い方にあるのではないか、中学一年の時は小学校の延長として、扱い方に間違いなければよく発言するはずだし、二年になった時、三年を迎えた時、発育上の問題はあっても、綿密な心をつくした（生徒の心理を考え）教師の取扱いがなされていればそれが急にとまるといふ事態そのことが、おかしなことだと思っていた。

石井先生は、二年、三年と学年が進むに従って発言しなくなるのは、育て方において問題があり、教師がそうさせているといわれて、吾が意を得たごとく感じた。

◇ 話しあい教材を読解的扱いをなしたことについて。

話しあい教材を読解教材として扱ったことについて、一、二の先生から質問があった。

わたしは、五月のはじめ本教材に入る前、生徒たちと話しあつて、今月はみんなが話しができるということを目標とすると決めた。併し、それはあくまで文章を通して話しあうという条件のものにもくろまれたことであり、そうすれば先ず、話しあいの素材になる文章が理解できていなければならぬということになる。そこでわたしは、読解する手だてを指導しながら、そこに話しあいの場を設けていこうと考えた。従つて深い読み取りでなくとも、

こんど場合は話すということにウェイトをかけながら、文章に即しながら、ことばにのつとつた話しあいをさせることにめあてをおいて扱っていったつもりだし、授業そのものも、読みとつたことを話すことが中心であつたと思う。

石井先生は、文学鑑賞の授業であつたといわれたが、わたしにしてみれば、鑑賞授業なら、もっと深くやりたいところだつた。でもそれが直接のねらいではなかつたし、生徒もまだそだつていないので、あとに文学鑑賞の素材の出でくるのを知っていたから、そこでこそ本格的な鑑賞指導をと考えていた。

尚教科書の編集が話しあいとあり、指導書が扱い方を指示しているとはいへ、その通りに扱うことが、いいとはわたしは考えない。なまいきな言い方をすれば、指導書の通り扱う教師ほど無能なるものはないとさえわたしは考える。

子どもの実態と、教材と、教師の自主性によつて最も扱い易いもつともその素材に適した扱いをなすことこそ、教師たるもの本領ではないかと考える。

石井先生は、とにかく教科書を作るためには、文字を並べなければならぬ。単元を並べなければならぬから、編者は、とにかく教材を選択して並べる。併しあとは取り扱う教師によつて、
〃煮て食おうと、焼いて食おうとどうしてくれてもよい〃と、この教科書の編集長である石森先生はいつていられると。

◇ 本教材取扱いの上において、

(石井先生のご批評を中心に)

(1) 発問、応答、ピッチの速さ

わたしの授業の発問応答の時間は、四十秒かなり早めてはいたようだが、中学ではもっと早めてよい。中学生は成長が早い、感性的認識から理性的認識へ移行する時、子ども扱いされることを

きらうという石井先生の言。

小学校の子どもの扱いに慣れきっているわたしとしては、四人五人の挙手では満足できなくて、もう少しみんなに考えさせてと間をおく週間が知らぬ間についてしまっている。

とくに小学校では、リ考える時間を与えよリという一項目が授業の一つの掟のようにさえなっているので、わたしはうかつにも、今度の授業では、考えさせる時間が少なかったのではないかとさえ思っていたくらいだ。成長が早いということを聞いて成程と思いい、中学生の心理、心情の研究をあわせてやらねばならぬと痛感した。

(2) 或る子どもが、瞬間ということばを発した。これを当然教師は取りあげて、瞬間的なきごとというふうに扱うと思つたら、そのまま聞きすごしたと、

わたしは、子どもの発言を石井先生のように受取らず、リ瞬間息がつまったリという、あの場にいあわせた作者の気もちのことをいっているを受け取ったので、軽く受け流してしまった。いずれにしても、本時限に学習した場面が、瞬間的な場面の病舎で会ったというふうに扱うことは、大事なことで、そうすれば、授業がもつと立体的になることは間違いない。

文章をもつと縦横無尽に分析し検討してみることの必要さを感じ、教材研究に一つの方向を見つけたような気がする。

(3) 本教材を読解教材として扱っても、行きつく先は話しあいにあるならば、それでよし、

次の「話しあいのしかた」は取扱う必要なく、家で読んでおけるくらいにして、次のリ立てふだリで話しあいをさせればよい。

(4) 最後のまとめに読みを、
小学校で四十五分の授業になれ、それでピタツと終わる習慣をつけてきたわたしは、今度の授業も四十五分で終わった。勿論五十分の計画だったのだが、五分の加減がわからなくて、もし延長

でもしたらあとくされが悪いと思ひ、実は時計を五分進めておいて授業に夢中になつているうちにそのことを忘れてしまった。

こいつがいけなかった。本時分の学習が終わった。がベルはならない、「はつ。」としたが、突差にまとめのつもりで板書をたどりながら（眼で読ませながら）本時学習の筋道をたどらせる。

そのあと新出漢字の筆順、そこでベル。自分としては、うまくごまかせたと思つていたのに、さすがは、石井先生、とうとうそれを見抜かれてしまった。この五分を黒板を読むのではなくて、教科書を読ませるとよかったといわれた。その読みは流暢なよみではなくとも、訥々とした読みでよいと。

◇ 学級の生徒の能力差による授業の進め方。

会員の中から生徒の能力差による授業の進め方はどうしたらよいかの質問に、

中学の教師は、ひとりで五学級、六学級も受持っているのだから、三〇〇人以上もの生徒の指導にあたっているわけで、その中でひとりひとりをとすることは、とても無理だが、感想などを書かせた時、生徒の読みとり、受けとり方、物の考え方などの傾向をみていくことはできるだろう。

〔随筆〕

幼児熟睡中

岐阜市立長森中

後藤 一次

「まったく困るね。こう毎日毎日、朝早くから庭先で騒いでくると、充子の睡眠時間が不足してくるから……。」

農家の子の目ざめは早い。ラジオ体操の始まる時刻よりもうんと早く集まり、私の家の縁先を占領する。勢いよく押しくらまんじゆうを始める。少し気を許すと、障子に穴をあけてのぞいても見

宵つ張りの長女充子（二歳）が、ぐっすり寝入った朝方、疾風怒濤が襲ってくる形だ。安らかな寝息をむずかり声に変えて反転する娘を傍にして、かんしゃく持ちの父親は用紙をひろげ、黒色のマジックインクで書きなぐる。

「幼児熟睡中。静かにせよ！」

「お待ちになつて、あなた。」と妻がいう。

「それではまるでけんか腰。言いたいことはそれでしようけど、それでは角が立つわ。それに、一体それを読むのはだれ？」

言われてみると、冷汗が出る。私はこどもを相手にずいぶん気をたかぶらせ、いたけだかになつたものだ。

「あつちゃんは、ねています。静かにしてやってください。」

「あつちゃんは、いまいいゆめをみています。目をさましたら、遊んでやってね。」

妻と私の共同修正の結果、最後のことばを生んだ。絵心のある妻が、充子の寝顔をスケッチし、このことばに添えた。

推考結果の良否、元氣一ぱいのこどもたちの心理に与えた影響の好悪、それをはかることはできなかつたが、怒濤はなぎ、疾風はゆくてを変えた。

「ノコ。きみにはシャツポを脱ぐよ。それを読むのはだれ？」

と言われて、カックンと来たよ。ところで、幼児熟睡中の生硬な漢語が、あつちゃんは、いまいいゆめをみています。というロマンティックな表現に変わったばかりか、より具体的に

なつたね。これを生活作文的発想というのかなあ。私は、気むずかしがりもせず、こうつぶやいて、眠りつづける娘の髪をなでていた。



名簿

岐阜市
伊奈波中

赤堀 利之
浅野 道雄
近藤 護
玉井 武博

明郷中

高井 宗夫
河野 博雲
馬淵登喜子
村瀬美代子
山本 絢子

本荘中

千草 俊
大前貴久枝
水谷 紀夫
川田 肇
吉田 辰美
児玉 博次
荻谷かほる
河合 智子

梅林中

小沢 雅弘
浅野 和夫
雄山 瑞年
野田 了嗣
青木 富彦

加納中

山本喜久男
大野 正行
宮部 芳朗
片山 利秋
西山 卓夫
船坂 民平
古田左右吉
山本 春子

長森中

橋本 雅芳
中村 慶三
伊藤 昭三
森島 逸雄
後藤 一次
土本 哲郎

長良中

高井 健
高木 義明
奥村 幸夫
可児 省吾
田口 参吾
後藤 道子
吉田 雄平

島中

南木 道隆
東海 文静
樋口シゲ代

岩野田中

榊原 隆清

興文中	大垣市	付属中	北方中	境川中	厚八中	岐北中	三輪中	藍川中	岐陽中	精華中								
早野	斉藤	扇本	松岡	横山	横幕	恒川	古宮	小島	河村	堀	平光	大塚	中島	伊藤	高橋	中島	小牧	高橋
信道	利明	肇	治	栄助	信夫	正美	嘉邦	敏	熙子	清子	弥	聡英	良太	真治	善昭	享	愿	俊太

田原中	関市		中山中	日枝中	高山市		西中			東中												
中島	上野	木下	高嶋	宮田	今宮	岩下	桐谷	浅野	浅野	上嶋	桑井	水野	白井	稻川	小川	片山	西田	森	田中	土屋	後藤	児玉
綾子	恵一郎	亮	一雄	栄二	利一	ひさ	忠夫	吉久	昭夫	八重子	智誠	健	昭夫	満秋	陽久	茂子	郁雄	英誠	桂造	弘禅	和	実

南ヶ丘中	多治見市		太田中	東中	美濃加茂市	竹鼻中	羽島市	稲羽中		那加中	各務原市	美濃第一	美濃市							
若尾	小川	竹本	土田	後藤	日比野	中島	林	赤塚	川口	森	西脇	宇野	若原	石田	浅野	大野	小次郎		広瀬	正義
武	哲雄	勲史	友良	圀祺	定孝	孝一	俊隆	恒美	淳	智誠	俊雄	彩子	宏	幸彦	秀男	小次郎				

板取中	武儀郡		駄知中	土岐市	恵那西	恵那市	日吉中	瑞浪	苗木中	落合中	中津川市	多治見中	陶都中			
可児	大東	松村	武田	堀川	增倉	伊藤	平方	丹羽	橋場		大高	渡辺	可児	水野	横井	今井
蘭溪	義美	美江	信一	盛明	正雄	哲雄	浩介	東平	きよ		真洋	義民	芳則	みち子	登	順子

山内志げ	大前孝子	中村隆文	足立利雄	松原賢竜	堀江静世	阿部英雄	北川一郎	大竹文江	本多秀文	遠藤幹郎	時中良正	松島良正	今津静子	伊藤豊子	桑原美佐子	川瀬正美	高田中	養老郡	糸貫中	高瀬昭賢	後藤周子	出村昌慶	巢南中	外山中	本巢郡	高木桂				
徳山中	揖斐郡	乾中	山県郡	石徹白中	明方中	高鷲中	相生第二	八幡中	郡上郡	上原中	中原中	益田郡	関ヶ原中	不破郡	徳山中	揖斐郡	乾中	山県郡	石徹白中	明方中	高鷲中	相生第二	八幡中	郡上郡	上原中	中原中	益田郡	関ヶ原中	不破郡	
向角演雄		増田耕三	高橋義雄	石徹白藤工門	藤田文子	前田恒子	末広正美	伊藤篁	蓑島文男	久野治雄	細江広久	山田亮寛	高瀬八重子																	
宮城中	古川中	森茂小中	坂下中	吉城郡	旗鉦中	折敷地中	朝日中	秋神分室	朝日中	平瀬中	大野郡	揖東中	三島晃映	小岩あや	浅野真康	武藤善尚	石徹白文夫	奥原昭四郎	坂下行雄	和島不二男	山下清雄	玉置活也	若原猛	岡部勲	天木スマ子	下堂前健治	横川君枝	森下昭二	田中一成	
	大野中	谷汲中	美東中	久瀬中	北和中	揖斐郡	神戸中	安八郡	神戸中	安八郡	武芸中	山県郡	小鷹利中	和田礼子	藤田治	桜井可津子														
	関谷千り子	清水佳夫	牧村薫	所哲郎	久保田重男	渡辺一美	岩崎法水	谷村武	松田勝治	松田勝治	児玉史子	日比邦子	大平義明	田宮八重子	旧富文成															

竹鼻中島市	羽島市	福岡中郡	恵那郡	白鳥中郡	郡上郡	海津郡	日新中郡	佐見中郡	富加中郡	加茂郡	中部中郡				
石原伸吾	平島和子	可知宗三	原和田ちえ実	名畑孝一	山下富子	松田政子	関谷昭二	原田光夫	丹羽光夫	納土隆三	和田国芳	河村正十	榎山登志子	安江東海	木村康男

田垣道子

事務局より
 去る六月会員募集の案内を各中学校
 国語主任あてにお出しいたしました
 ところ、多数の方がご加入下さいま
 した。ご協力の程感謝致していま
 す。こゝに紙上をかり ご氏名を
 掲載させていただきます。

事務局だより

去る五月二十五日、保護司会館にて、理事会を開催しました。以下話し合ったことについてご報告いたします。

△「漢字の力」作成経過報告(略)
△会則の改正について

- 第二条 本会は事務所を岐阜大学附属中学校内に置く。
- 付則 第二十一条 会費は会員一人当たり年三百円とする。会費の徴収については別に定める。

(説明) 会費については、会費の額を明記しましたが、個人研究費として二百円おかせししますので、実質百円の会費納入となります。

△ 本年度の役員について

会長	野田 満	河村 正十	浅野 和夫
副会長	小谷 一雄		
理事長	早野 信道		
理事	浅野 和夫	浅野 和夫	高木 義明
	木村 康男	浅野 和夫	高木 義明
	小牧 愿	細野 徹	荻谷 忠芳
	田口 参吾	後藤 圀祺	北川 一郎
	原田 昭二	原 実	宮部 芳朗
	笹島 文雄	樋口シゲ代	古橋 竜夫
	岡部 英雄	川口 淳	荻谷かほる
	児玉 博次	扇本 肇	山本 春子
	高井 宗夫	高橋 善昭	斉藤 利昭
	千草 俊		
事務局	千草 俊	堀 きよ子	
会計	高井 宗夫	扇本 肇	
監事	北川 一郎	高橋 善昭	
		原田 昭二	

(敬称略)

△ 本年度の事業計画について

国語研究大会(岐阜県国語教育連盟)

九月十九日(木) 岐阜大学附属中学校にて

研究会・総会

一月二十一日(火) 実施予定

会報の発行 年三回

「漢字の力」の改訂 夏休みに実施

△ その他

前年度の会計報告及び本年度の予算案の審議をいたしました。後日報告いたしますので、割愛させていただきます。

あとがき

○会員のみなさん、お元気ですか。

六月はじめ、会員募集のご案内を、各中学校国語主任あて発送しましたところ、多数の方々のご参加を得、ご協力のほど感謝いたします。

○去る五月の理事会の折、会報を六月下旬、発行するよう、ご指示を受けましたが、つつい遅くなってしまつて申し訳なく思っています。

いつもながら十分なことができなくて、事務局の怠慢をおゆるしく下さい。

○さて、当研究会は、前年度、「漢字の力」を発行しました。

ご採用くださいましたか。今年度もその改訂を準備しています。お気づきの点がありましたら、事務局まで、ご一報ください。

○これから暑さもいちだんときつくなります。会員のみなさま、おからだに十分気をつけて、お過ごしください。

(事務局 千草 俊)

会費(実質百円)は九月十九日実施
お 予定の大会の折、各校とりまとめて
願 お持ちいただけますなら、幸いに存
い じます。なお、その折都合のわるい
お方は事務局あてお送りください。